

お釈迦様(その1)

お釈迦様の誕生と名前

お釈迦様の呼び名は、はじめから「お釈迦様」だったわけではありません。

仏教の開祖であるお釈迦様がこの世に誕生したのは、はっきりとした年代は分かっていませんが、今から約2500年前の4月8日と伝えられています。釈迦族の国王である父・シュッドーダナと、母・マーヤーの間に生まれました。生誕の地は、現在のネパール南部に位置する、ルンビニーという村の花園と言われています。

お釈迦様が生まれた頃のインドとその周辺国は、国全体を統一する王朝が成立しておらず、多くの部族国家が林立していました。

生まれた時のお釈迦様は、サンスクリット語の「ゴータマ・シッダールタ」という名前を付けられました。

お釈迦様の「ゴータマ・シッダールタ」という名前は、「ゴータマ」に「最上の牛」、「シッダールタ」に「目的を達成する人」という意味が込められています。

ゴータマ・シッダールタという名がありながら、「お釈迦様」と呼ばれるようになったのは、釈迦族の王子だからという説が有力です。

また、悟られてからは、釈迦族の聖者として「釈迦牟尼(しゃかむに)」、釈迦族の尊者として「釈尊(しゃくそん)」とも呼ばれています。



住職レター

毎年、作成しております善教寺法要案内パンフレット、令和三年版のタイトルは「怨憎会苦」。

今年は「愛別離苦」、再来年の令和四年は

「求不得苦(ぐふとつく)」、そして令和五年の

「五陰盛苦(ごおんじょうく)」へと続く予定です。お

楽しみに。と言っても、「苦」を伝え続けられるのは、

読むのも「苦」ですね。申し訳ありません。

約二五百年前、お釈迦様が三十五歳で仏のさと

を開かれた、その第一声は「人生は苦なり」でした。

人生の苦しみを四つに大別したものを「四苦」、生

苦・老苦・病苦・死苦、それに前述の四つの「苦」を

加えて「四苦八苦」と教えられています。

いずれの世、いずれの里でも受けねばならぬ人間の苦

しみを、八つにまとめられたもので、お釈迦様自身も、

王様の子として生を受け、文武の才能に恵まれながら、

それでも無くならぬ苦に嘆かれました。

善教寺法要案内パンフレット、今までと大きく変わ

った点があります。気付かれましたか？

私の「ごあいさつ」の写真、リニューアルしました。

約十年前の写真を使い続けており、「さすがに若い写真

は罪じやろう!」と反省しております。若さに執着す

るのも、一つの苦かな。いやこれは、煩惱でしょうね。

除夜の鐘を撞いて、いらぬ煩惱の

垢を落とし、新年を迎えようしま

しょう。

今年も、お世話になりました、

有り難うございました。

